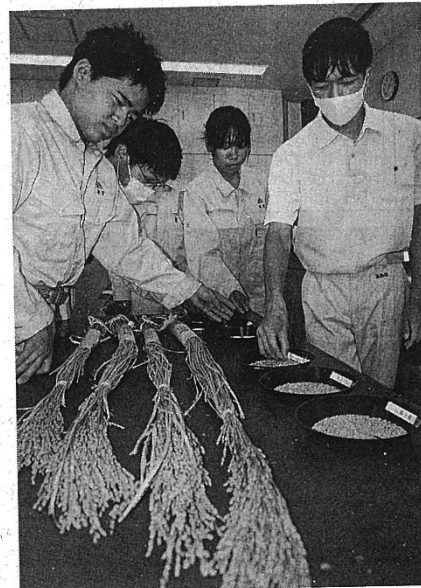


「倒れにくく心白大きい」

東雲高 酒米新品種の栽培学ぶ

酒造会社と連携して清酒を造るプロジェクトを展開している篠山東雲高校2年生がこのほど、同



さまざまな品種の酒米を触って違いを感じる生徒たち＝丹波篠山市福住で

校農場で、栽培3年目となる兵庫県の酒米新品種「HyogoSake85」の栽培指導を受けた。生徒たちは、より品質の良い酒米を作ろうと、メネを取りながら熱心に話を聞いていた。

講師は、県農林水産技術総合センター酒米試験地の〇さん。生徒

たちに▽倒伏耐性が強い▽米こしじが育ちやすい米粒中心部の「心白」が大きい一などの特長がある一方、芽出しに時間を要したり、遅れて穂が出

て、青米がでやすかったりするため、面積当たりの株数を少なくする疎

植を選び、中干し期間を適正に取ることなどをアドバイスした。

〇さん（丹南中出身）は「酒米の品種によって特徴が違うことや、HyogoSake85が工夫して改良された品種だと分かった」と話

していた。
同品種は、県が1986年から、多収の特長がある韓国で育成された「水原258号」と、県を代表する「山田錦」を交配、育成している。昨年度、県全体の作付面積は、山田錦が約4000

畝、同品種は丹波市を中



学校の農場で「HyogoSake85」の栽培方法を聞く生徒たち

2023年7月23日
丹波新聞